

# JAふくしま未来と女性部がつくる、 地域に“よりそう”子ども食堂

研究員 野場隆汰

## 1 子ども食堂の広がり

近年、子どもの貧困や高齢者の孤食といった食やコミュニティに関する社会課題が顕在化している。こうした課題に対し、子どもとその保護者、地域住民等に無料または安価で栄養のある食事を提供する「子ども食堂」の取組みが広がりを見せており、その開設数は22年時点で全国7,363か所に及んでいる(むすびえ(2023))。

こうした子ども食堂は、食と農に密接なつながりを持つJA事業にとって親和性のある取組みといえる。本稿では、その事例として福島県のJAふくしま未来(以下、「JA」という)の女性部が22年10月に開設した子ども食堂「よりそい食堂♣やながわ」(以下、「よりそい食堂」という)を紹介する。

## 2 旧JA支店を組合員活動の場へ

よりそい食堂は福島県伊達市梁川町にあるJA施設「みらいホールやながわ」で営業されている。このみらいホールやながわは19年に発生した洪水で浸水被害を受けたJAの旧梁川



写真1 よりそい食堂♣やながわでの食事風景(筆者撮影)

総合支店の金融店舗機能を廃止し、組合員活動の拠点としてリニューアルした施設である。

その主な用途は女性部の食農活動となっており、金庫室はコンロやシンクを備え付けた調理室、事務所とロビーは大人数が収容できる多目的スペースとしてそれぞれ改装されている。そして、これらの設備を地域貢献のために活用したいというJAの思いから、女性部による子ども食堂の開設が発案された。

## 3 JA女性部有志によるボランティア運営

よりそい食堂の運営はJA伊達地区本部女性部の有志によるボランティアグループ(以下、「グループ」という)が担っている。23年8月時点で約20人の女性部員がグループに登録しており、そのうち毎回10人前後が前日の仕込みや調理、当日の受付や配膳等の食堂運営を協力して行っている。

グループ結成に先立ち、JAの伊達地区本部地域支援課が主体となって、女性部内のボランティア志望者向けに全4回の養成講座を開催した。その初回では保健所職員を講師として招き、食品衛生管理の基礎などを学習した。また、他地域の子ども食堂の視察にも赴き、ボランティア活動の実態を知るとともに、現場の人の思いを聞く機会も設けた。こうした講座の開催は、グループのメンバーが子ども食堂運営にとって重要な要素を学ぶ機会となり、現在の活発で円滑な食堂運営につながっているといえる。

## 4 フードドライブで地産地消

よりそい食堂は毎月第3土曜日の11時半～

13時に開催されており、1回の営業につき、約100食分を目安に食事を用意している。1食分の料金は大人300円、子ども(中学生以下)は無料となっている。

よりそい食堂で提供されるメニューは野菜と果物を中心に、肉類もしくは魚介類など、栄養バランスに配慮したものとなっており、材料となる野菜の多くはJAによるフードドライブ(注)によってまかなわれている。JAの伊達地区内の3つの農産物直売所には空きかごが設置されており、出荷者は規格外品や売れ残り品をそこに置いていく。毎週金曜日になると、そのかごをJA職員が回収し、寄附された食材をよりそい食堂を含む地域の子ども食堂に届けるという仕組みである。また、調理しきれずに余ったフードドライブの食材は、営業当日に利用者へ安価で販売もしている。

なお、フードドライブではまかないきれない野菜・果実や肉類、魚介類等についてはJAからの支援金を活用して調達しており、その際もなるべく地元産の食材を購入するように心掛けている。

このように、よりそい食堂で使用される食材は地元産が中心で、メニュー表には「○○産」のように産地が明記されているものも多い。子どもたちは自分たちが食べている料理が地元産であることを知って食事を楽しむことができ、地産地消を学ぶきっかけとなっている。こうした地元産食材を調達できる仕組みは、農家との関わり合いが深い農協ならではの特徴といえるだろう。

## 5 地域の多様な人々によりそい食堂に

子ども食堂と聞くと貧困の子ども向けというイメージが一般的には先行しているが、そ

(注)フードドライブとは、家庭等で余った食材や食品を集め、それらを必要としている地域のフードバンクや生活支援団体、福祉施設等に寄付する活動のこと。



写真2 よりそい食堂で提供されているメニュー例

### 2023年8月のメニュー表

- ・福島県産豚肉のキーマカレーと旬の地元産野菜トッピング
- ・トマトのコンソメスープ
- ・きゅうりの漬物
- ・福島県伊達地区産の桃
- ・農協牛乳

出典 JAふくしま未来提供

の実態としては、地域の多様な人々が訪れ、食事をしながら交流できる「地域食堂」のような場所となっているケースも多い。

筆者が実際によりそい食堂を訪れたときも、子どもたちだけでなく、その家族や地域の高齢者、近所に住む友人グループなど、多様な世代と関係性の人々がともに食事を囲んでいる様子が印象的であった。立ち上げを主導したJA職員いわく「本当に食事が必要な子どもたちが気軽に訪れることができるような、誰でも入って良いような明るい雰囲気づくり」をよりそい食堂の当面のコンセプトとしているとのことである。その言葉のとおり、よりそい食堂が多様な人々に温かい食事と居場所を提供する、地域の拠り所として今後もあり続けることを期待したい。

### <参考文献>

- ・認定NPO法人 全国子ども食堂支援センター・むすびえ (2023)「子ども食堂全国箇所数調査 2022 結果(確定値)のポイント」

(のば りゅうた)